石川の巨樹

日本一の「太田の大トチノキ」

（白山市白峰）

今から28年前の平成4年に、私は8歳と5歳の息子2人を連れて初めて白峰にある太田の大トチノキ（以下「大栃」）を訪ねた。当時は書店に巨樹を紹介する書籍は少なく、平成5年に国の天然記念物に指定される事となる大栃を調べるのに大変苦労した。

国道157号を外れ山道を3㌔程進んだところで、これ以上は乗用車では走行出来ないと判断し歩くことにした。しばらく進むと山道は二手に分かれ、そこには車両止めの鎖が掛かっていた。その先の山道は谷を縫うように右左折を繰り返し先へ先へと延び、大栃を初めて訪ねる訪問者を不安にさせた。まさか熊は出ないだろうと思いながらも息子達との会話の声も大きくなり、こんもりとした樹冠が見えた時は、やっと無事着けたと安堵した。近くまで行き、幹の太さ、深い縦皺、ごつごつした大きな瘤を思わせる肌、幹周13ｍ、高さ25ｍの一本の樹の迫力に圧倒された。屋久島の縄文杉等巨樹の映像は見て知ってはいたが、今眼前にある樹は今まで出会った最大の生命体で大きさもさることながら、不思議と畏敬の念を覚えた。以降28回も会いに出掛けることとなる最初の出会いである。

本樹への熱い憧れともっと多くの人々にこの巨樹を知って欲しいとの私の思いは、初対面から4年後の平成8年に実現した。金沢市立粟崎小学校の育友会役員を務めていた関係で、子供達や父兄、先生方も参加して夏休み中に「太田の大栃探検ツアー」を企画実施した。大型バス2台に分乗して国道157号を南下、大栃のある大道谷へ入る堂の森前で全員下車し山道を歩いて大栃を目指した。

当時本会常務理事の田中敏之氏（故人）と地元白峰の山口一男氏に応援頂き約2時間で全員無事大栃に到着した。両氏にそれぞれ解説を頂いた後は、先乗りした父兄の方々が、白峰の堅豆腐となめこで準備したなめこ汁と持参したおにぎりで昼食をとった後、大栃の廻りを子供達が手を繋いで日本一の幹周を体感した。

最後は大栃の前に全員集合して記念撮影、総勢102名と大栃との写真は額に入れて今でも寝室に掛かっており、子供達の感想文と併せて私の思い出の宝物となっている。

平成元年に発足した本会の初代会長の里見信生氏（故人）が、記念する会報第1号に「日本一の白峰村太田のトチノキ」と題して寄稿されている。「大栃は当時、国の天然記念物に指定されている4本のどれよりも幹周が大きく、我が国最大であるにも関わらず村指定に過ぎない、これは真に残念なことである」と記しておられる。その後、平成元年に県天然記念物に、平成5年に国天然記念物に認定されました。

これは正に里見初代会長をはじめとした、本会の後押しがあった賜物と確信している。当時の役員の方々の実行力に頭が下がると共に、本樹は日本を代表する日本一のトチノキであると声高に発信し、これからも足を運び大栃の元気な姿を見守りたい。

本年11月18日、珍しく暖かい快晴の下2年ぶり29回目の対面を果した。幹の割れ目が大きくなっており今冬の大雪予報が気掛かりではあるが、無事で乗り切ってくれと祈るばかりである。

（県巨樹の会　北川正司）

治山・林道コンクール受賞者が決定

去る11月19日に東京都内で、本年度の同コンクール等の表彰式が行われましたので、受賞者をご紹介します。

○日本治山治水協会長賞

・治山工事部門
中部地下開発（株）「地すべり防止事業桐山地区地すべり防止工事」

・治山木材使用工事部門
（株）風組「予防治山事業大前山地区山腹工事」

○日本林道協会長賞

・林道維持管理部門
小松市「打木西俣線」

・林道工事部門
（株）ミヤジマ建設「県営林道開設事業安谷2工区開設工事」

・林道木材使用工事部門
灰田建設（株）
「林道北谷線開設工事」

・創立70周年記念林道功労者
山本成一郎（本会前専務理事）

（県山林協会）